

新型コロナウイルスワクチンの副反応と効果について

詳細 新型コロナウイルスワクチン接種対策室 ☎(32)6407

苫小牧市でもワクチン接種が始まりましたが、「早く打ちたい!」と思う一方、「副反応やアナフィラキシーが心配」という思いがあるかと思えます。

ワクチンを打つか打たないかは、本人の同意(意思)が必要で人から強制されるものではありません。ここでは、ワクチン接種の副反応と効果について、国が公表しているデータを分かりやすく紹介します。

※全ての記載内容やデータの出典元は【厚生労働省新型コロナウイルスワクチンQ&A】ですが、一部、分かりやすい言葉や見やすく変更しています

どんなワクチンでも、副反応が起こる可能性があります

一般的にワクチン接種後には、ワクチンが免疫をつけるための反応を起こすため、接種部位の痛み、発熱、頭痛などの「副反応」が生じる可能性があります。治療を要したり、障がいが残るほどの副反応は稀ではあるものの、ゼロではありません。(予防接種による健康被害は救済制度の対象です)

接種後、数日以内に現れる可能性のある症状について

発現割合	症 状
50%以上	接種部位の痛み、疲労、頭痛
10~50%	筋肉痛、悪寒、関節痛、下痢、発熱、接種部位の腫れ
1~10%	吐き気、嘔吐

コミナティ®添付文書より改編

- インフルエンザなどのワクチンより痛みが強いと感じる方もいます。
- これらの症状の大部分は、接種後数日以内に回復しています。
- 疲労や関節痛、発熱など、1回目より2回目の方が、頻度が高くなる症状もあります。

ワクチンを受けた後に熱が出たらどうしたらよいですか ?

ワクチンによる発熱は接種後1~2日以内に起こることが多く、必要な場合は解熱鎮痛剤を服用するなどして様子みてください。
2日以上熱が続く場合や、症状が重い場合には、医療機関などへ受診や相談をしてください。



専門相談ダイヤル

北海道コロナワクチン接種相談センター

☎0120(306)154 [受付時間]9時~17時30分 (土日/祝日も受付)

- ワクチンの副反応などに関する相談
- 副反応発生時の受診に関するアドバイス
- ワクチンの有効性・安全性に関する情報提供